塩竈でこどもたちの居場所づくりが必要な理由

～「平成28年度塩竈アフタースクール事業に係る基礎調査」より～

© NPO Asuiku All Rights Reserved.

「平成28年度塩竈アフタースクール事業に係る基礎調査」調査概要

■　調査の目的

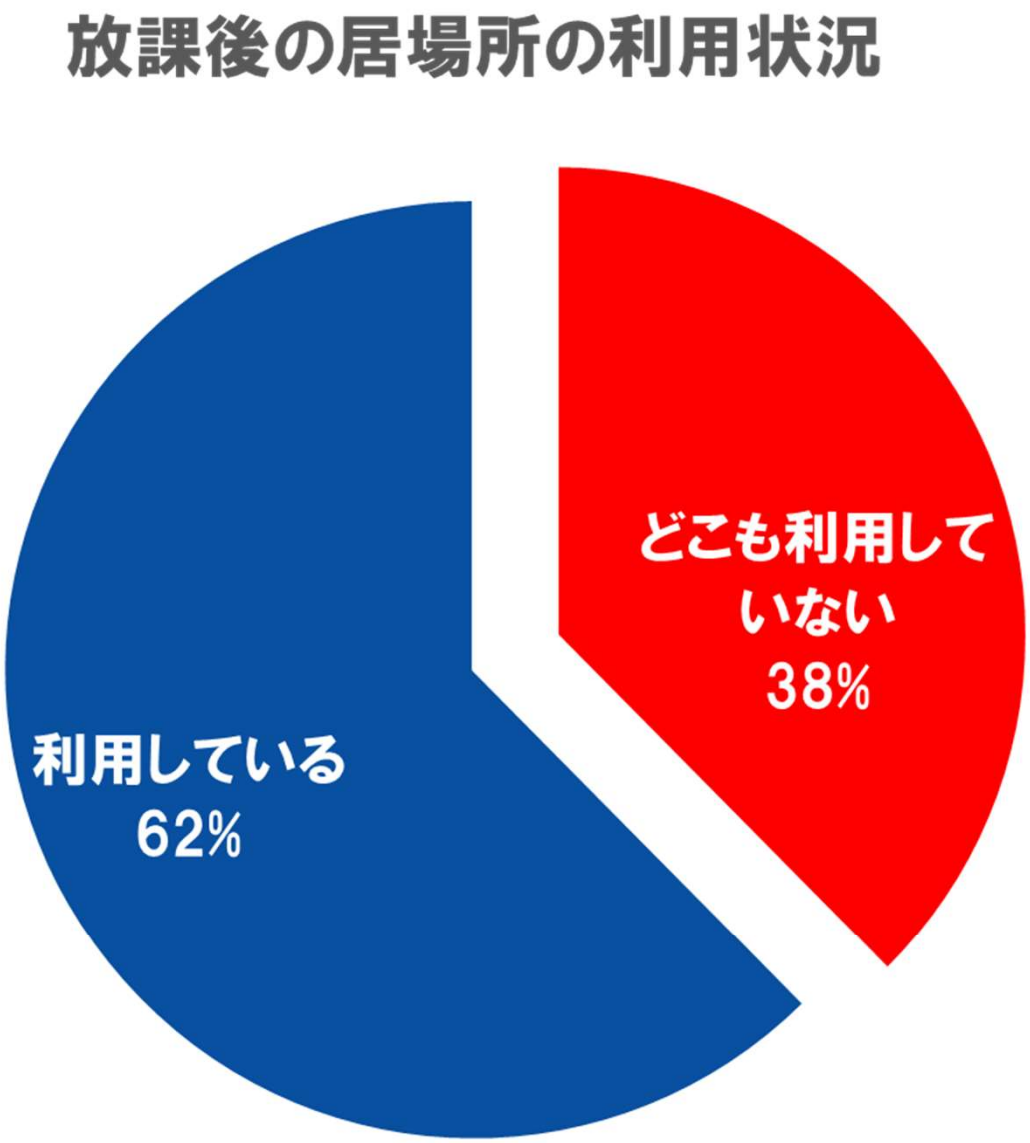
塩竈アフタースクール事業の前段として、放課後の現状と課題、ニーズを把握し、よりニーズに合った事業を実施していくため、アンケート調査を行なった。

■　調査の方法

1. <u>調査対象</u>
   塩竈市内の小学校7校に在籍する全児童2,419名の保護者
2. <u>調査方法</u>
   各小学校を通じて調査票を配布・回収
   回答数2,241件（回答率92.6％）
3. <u>調査期間</u>
   2017年2月14日～2月21日

© NPO Asuiku　All Rights Reserved.

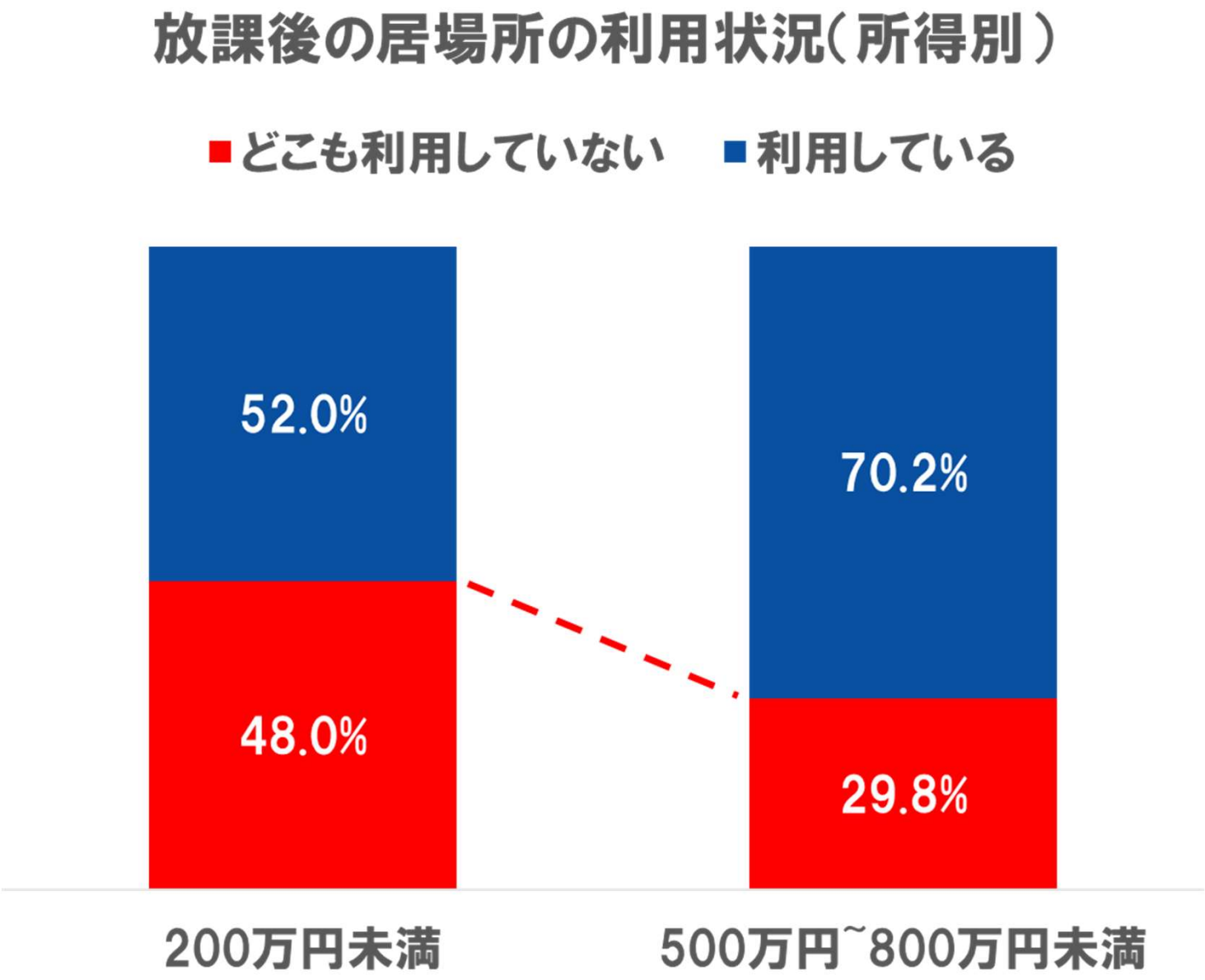
約3人に1人が、放課後の居場所を利用していない。



※「利用している」の内訳
- 塾・習い事（30.2％）
- 校庭・公園（19.4％）
- スポーツ教室等（13.3％）
- 放課後児童クラブ（12.3％）、他

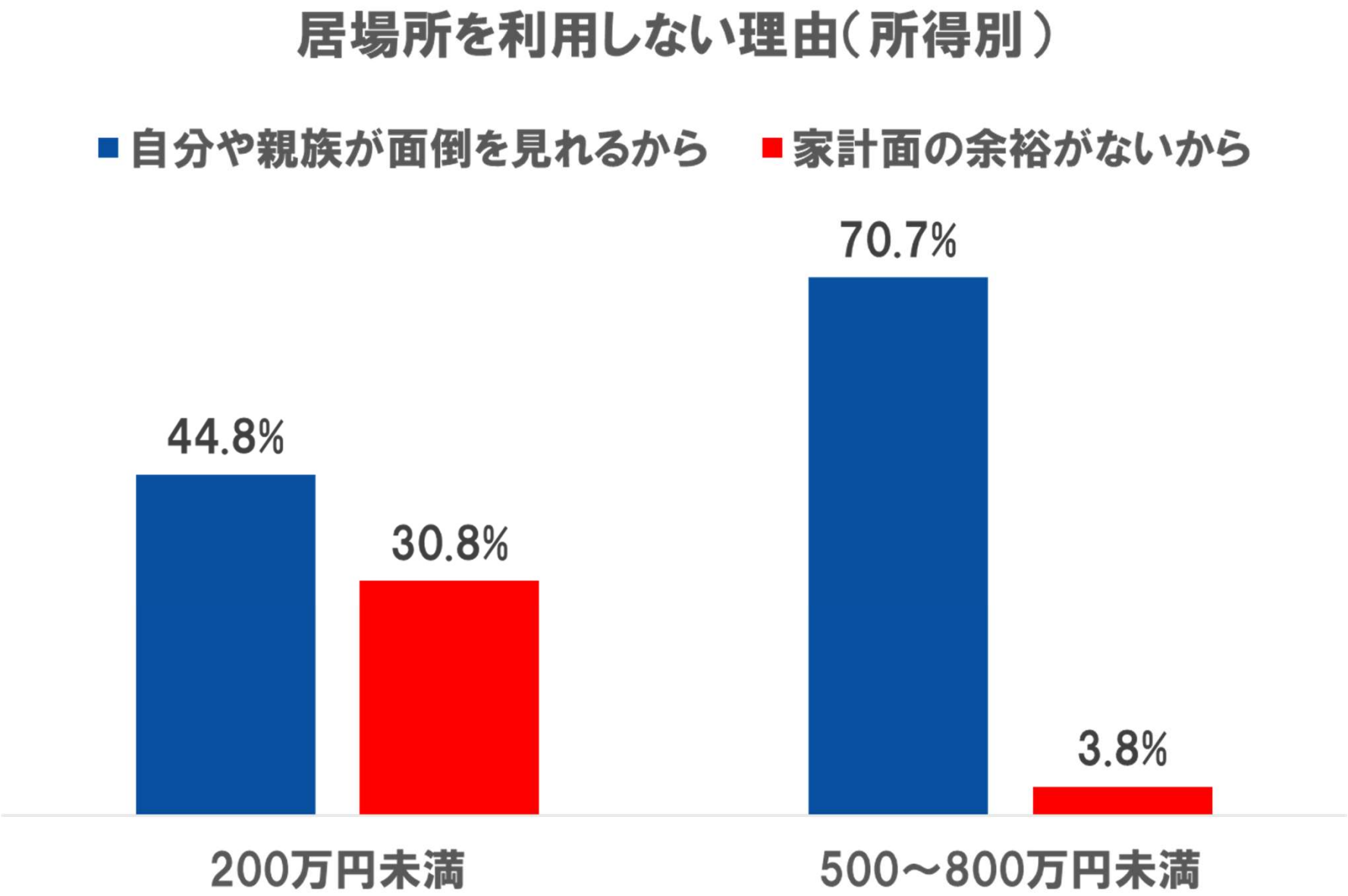
© NPO Asuiku All Rights Reserved.

低所得世帯ほど放課後の居場所を利用しておらず、200万円未満では約半数が利用していない。



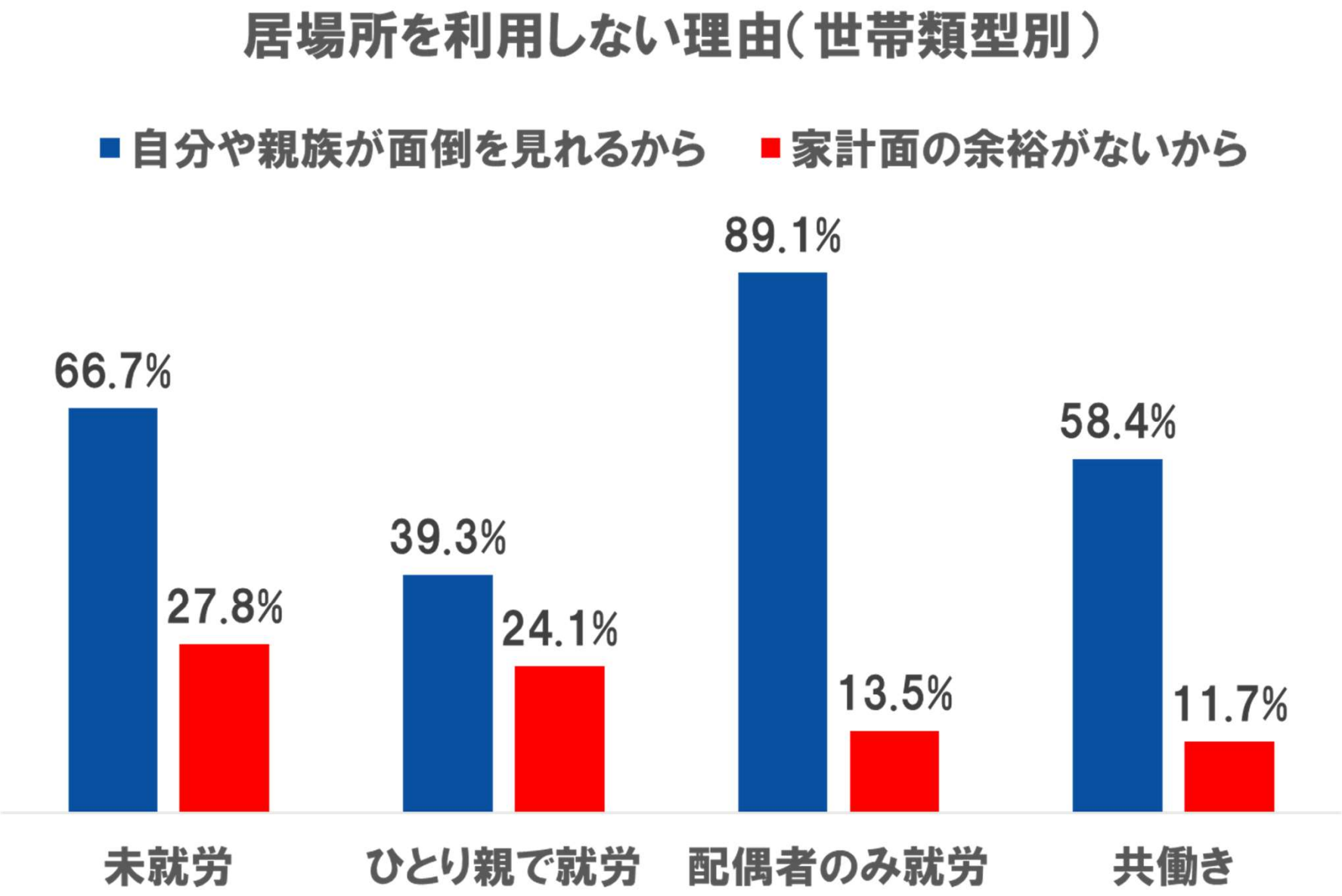
© NPO Asuiku All Rights Reserved.

高所得世帯では親・親族が面倒を見れるという理由が7割を占め、低所得世帯では家計の余裕がないという理由が3割を占める。



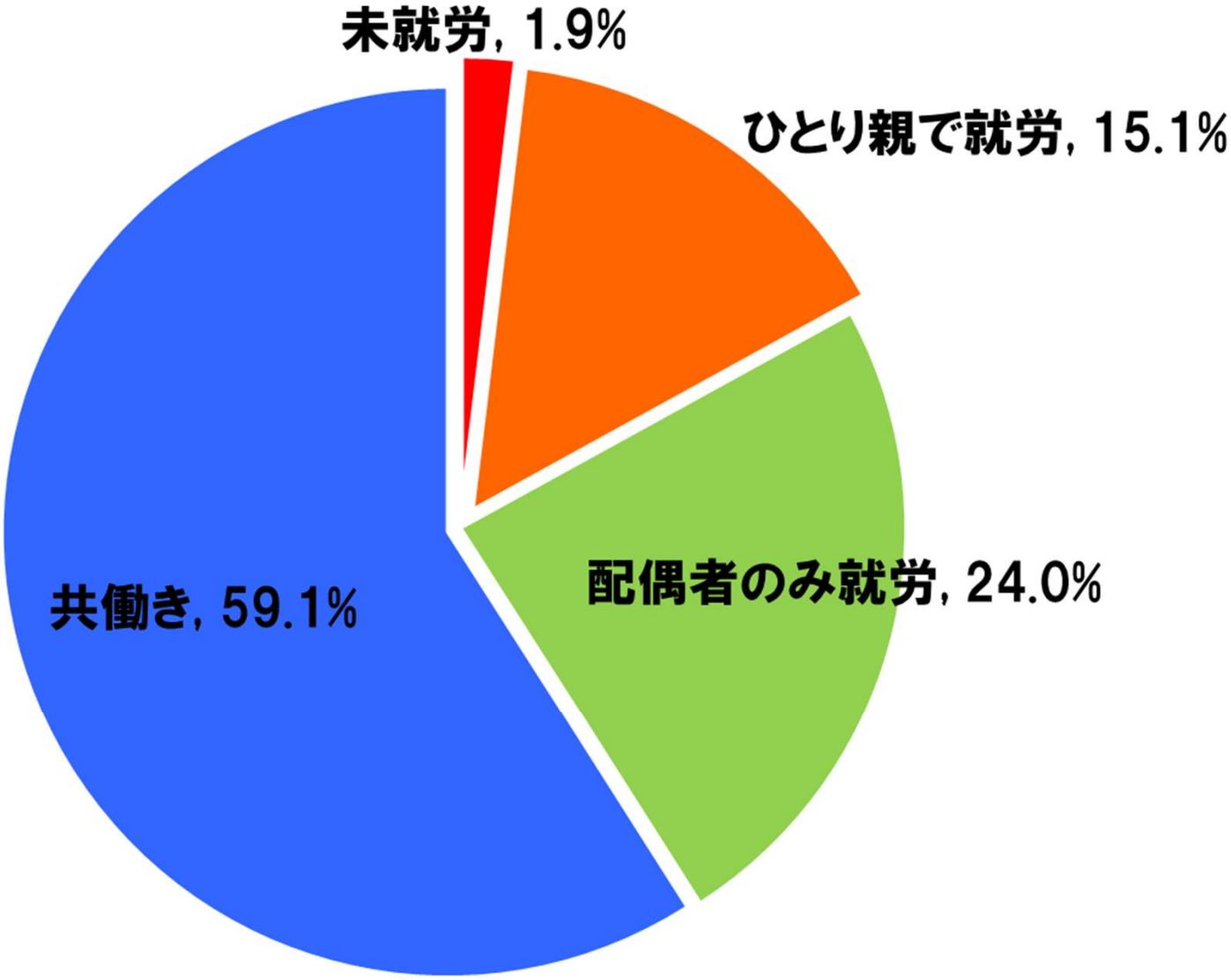
© NPO Asuiku All Rights Reserved.

未就労やひとり親世帯で家計の余裕がないという理由が多い。



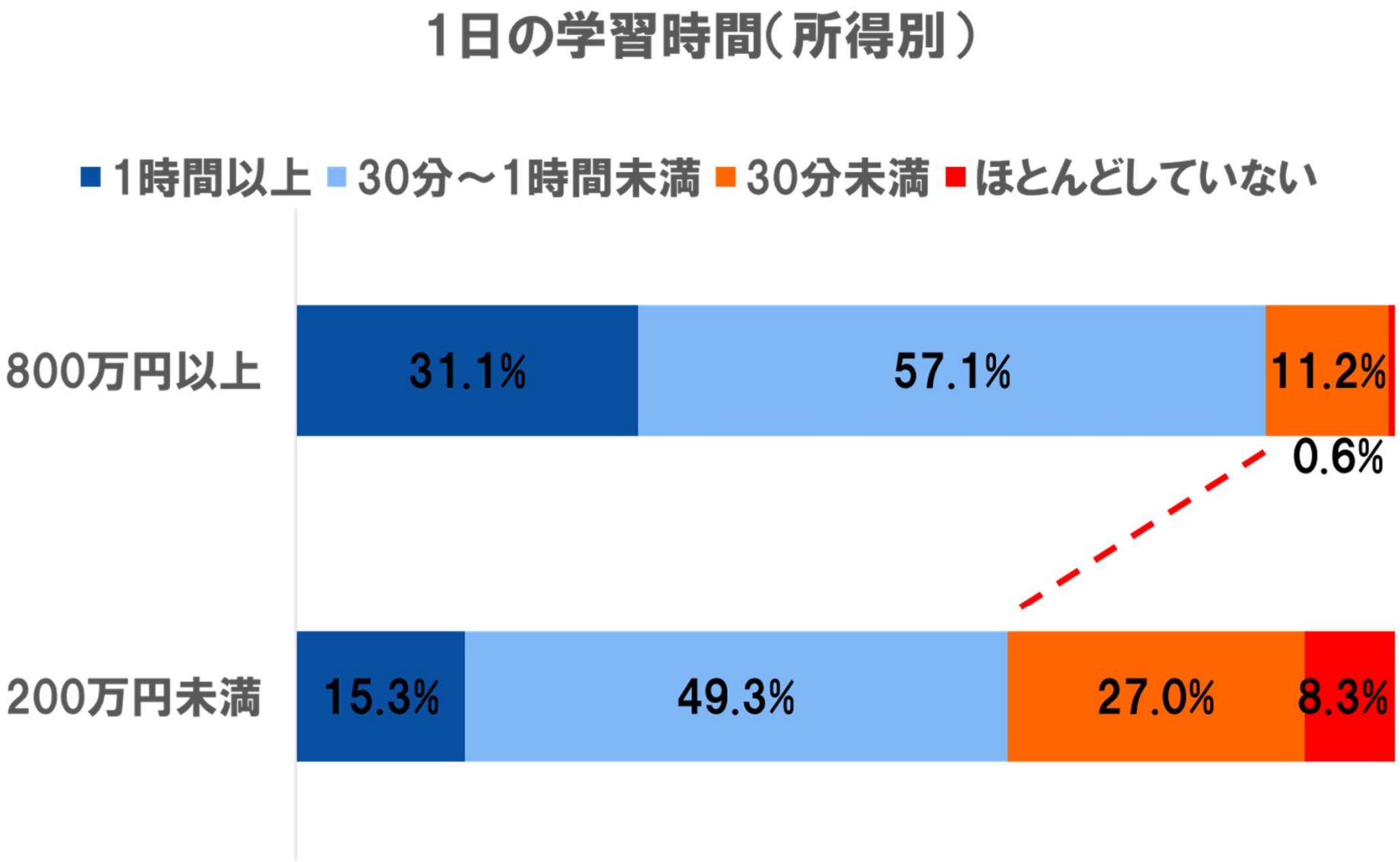
© NPO Asuiku All Rights Reserved.

参考：世帯類型別の割合



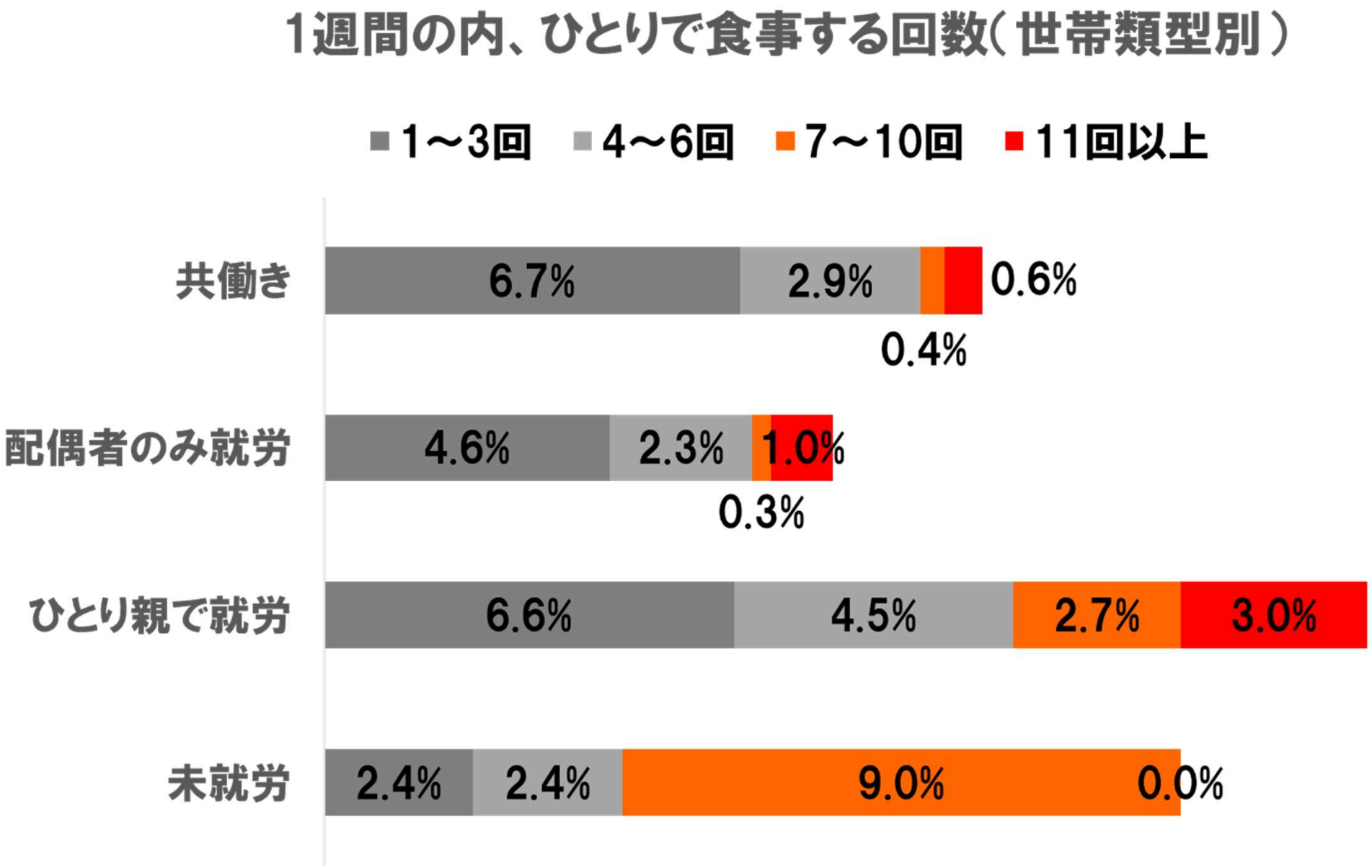
© NPO Asuiku All Rights Reserved.

所得によって、子どもの1日の学習時間には明確な差があり、200万円未満では、3人に1人以上が学習時間30分未満。



© NPO Asuiku All Rights Reserved.

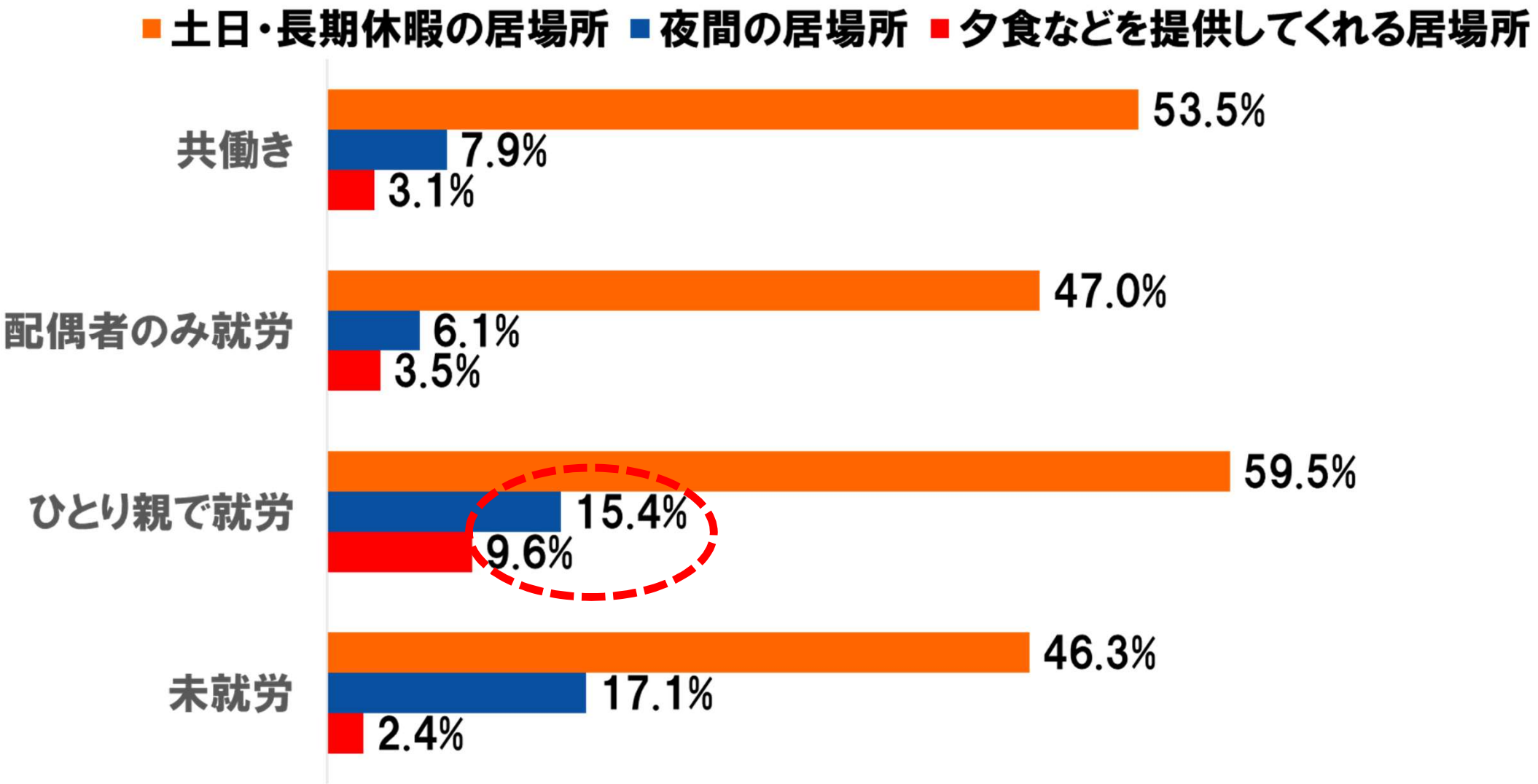
特にひとり親、未就労世帯の子どもに孤食傾向がみられ、ひとり親の約6％、未就労の9％は食事の半分以上が孤食。



© NPO Asuiku All Rights Reserved.

全体的に、土日・休暇の居場所の希望が多いが、特にひとり親世帯で、土日・休暇、夜間、食事提供の居場所（預かり型）を求めている。

充実させてほしい居場所（世帯類型別）



© NPO Asuiku All Rights Reserved.

あるシングルマザーの声

- 息子のお友達が数人、毎日（週末も）家へ遊びにくるのですが「家に帰っても誰もいない。23時頃帰ってくる」、「朝起きたらだれもいなくて、ごはんもない」、「朝から何も食べていない」と言います。その子たちの分も昼食をだしたりもします。

- とにかく一人、家で過ごすのがさみしいようなのでなかなか帰りたがりません。暗くなったら送ってあげなければ心配ですし…。そういうお子さん達のためにこの事業は本当に必要だと思います。

- 行政的な居場所の他、仲よしのお友達の家で過ごせるような親同士のつながりやサポートがあっても良いかもしれません。うちに来ている子の親御さんは連絡先を知らないので困ることがあります。

（小学校4年生の母、母子家庭、年収200万円未満）

© Yusuke Ohashi All Rights Reserved.